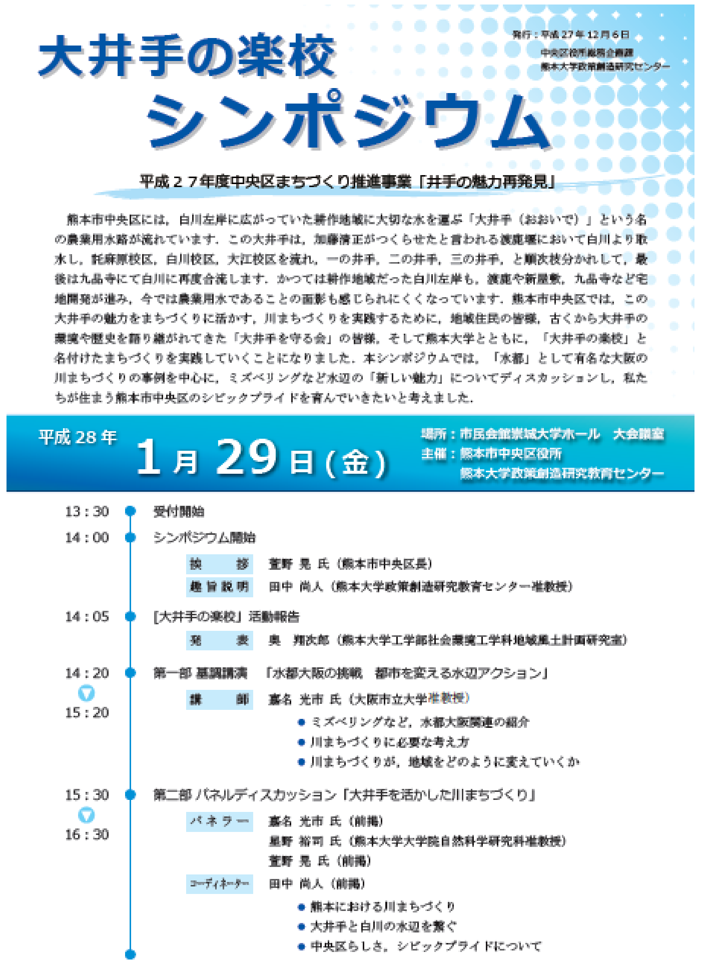
資料２－４

平成２７年度中央区まちづくり事業「井手の魅力再発見事業・大井手の楽校」

H28 年１月 29 日「第５回大井手の楽校シンポジウム」



発行：平成 27 年 12 月 6 日
中央区役所総務企画課
熊本大学政策創造研究センター

大井手の楽校 シンポジウム

平成２７年度中央区まちづくり推進事業「井手の魅力再発見」

熊本市中央区には，白川左岸に広がっていた耕作地域に大切な水を運ぶ「大井手（おおいで）」という名の農業用水路が流れています．この大井手は，加藤清正がつくらせたと言われる渡鹿堰において白川より取水し，託麻原校区，白川校区，大江校区を流れ，一の井手，二の井手，三の井手，と順次枝分かれして，最後は九品寺にて白川に再度合流します．かつては耕作地域だった白川左岸も，渡鹿や新屋敷，九品寺など宅地開発が進み，今では農業用水であることの面影も感じられにくくなっています．熊本市中央区では，この大井手の魅力をまちづくりに活かす，川まちづくりを実践するために，地域住民の皆様，古くから大井手の環境や歴史を語り継がれてきた「大井手を守る会」の皆様，そして熊本大学とともに，「大井手の楽校」と名付けたまちづくりを実践していくことになりました．本シンポジウムでは，「水都」として有名な大阪の川まちづくりの事例を中心に，ミズベリングなど水辺の「新しい魅力」についてディスカッションし，私たちが住まう熊本市中央区のシビックプライドを育んでいきたいと考えました．

平成 28 年 **1 月 29 日（金）**

場所：市民会館崇城大学ホール　大会議室
主催：熊本市中央区役所
熊本大学政策創造研究教育センター

13：30　受付開始

14：00　シンポジウム開始

- **挨　拶**　紫野 晃 氏（熊本市中央区長）
- **趣旨説明**　田中 尚人（熊本大学政策創造研究教育センター准教授）

14：05　「大井手の楽校」活動報告

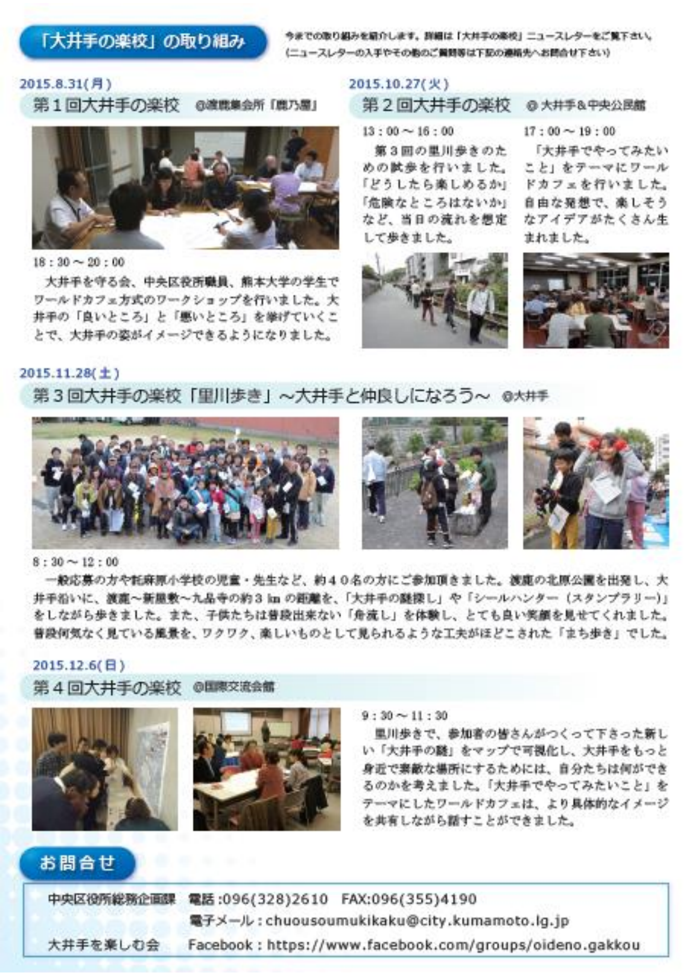
- **発　表**　奥　翔次郎（熊本大学工学部社会環境工学科地域風土計画研究室）

14：20 ～ 15：20　第一部 基調講演　「水都大阪の挑戦　都市を変える水辺アクション」

- **講　師**　嘉名 光市 氏（大阪市立大学准教授）
  - ミズベリングなど，水都大阪関連の紹介
  - 川まちづくりに必要な考え方
  - 川まちづくりが，地域をどのように変えていくか

15：30 ～ 16：30　第二部 パネルディスカッション「大井手を活かした川まちづくり」

- **パネラー**　嘉名 光市 氏（前掲）
  星野 裕司 氏（熊本大学大学院自然科学研究科准教授）
  紫野 晃 氏（前掲）
- **コーディネーター**　田中 尚人（前掲）
  - 熊本における川まちづくり
  - 大井手と白川の水辺を繋ぐ
  - 中央区らしさ，シビックプライドについて



「大井手の楽校」の取り組み

今までの取り組みを紹介します。詳細は「大井手の楽校」ニュースレターをご覧下さい。
（ニュースレターの入手やその他のご質問等は下記の連絡先へお問合せ下さい）

2015.8.31（月）

第１回大井手の楽校　@渡鹿集会所「鹿乃屋」

18：30 ～ 20：00

大井手を守る会、中央区役所職員、熊本大学の学生でワールドカフェ方式のワークショップを行いました。大井手の「良いところ」と「悪いところ」を挙げていくことで、大井手の姿がイメージできるようになりました。

2015.10.27（火）

第２回大井手の楽校　@大井手＆中央公民館

13：00 ～ 16：00

第３回の里川歩きのための試歩を行いました。「どうしたら楽しめるか」「危険なところはないか」など、当日の流れを想定して歩きました。

17：00 ～ 19：00

「大井手でやってみたいこと」をテーマにワールドカフェを行いました。自由な発想で、楽しそうなアイデアがたくさん生まれました。

2015.11.28（土）

第３回大井手の楽校「里川歩き」～大井手と仲良しになろう～　@大井手

8：30 ～ 12：00

一般応募の方や託麻原小学校の児童・先生など、約４０名の方にご参加頂きました。渡鹿の北原公園を出発し、大井手沿いに、渡鹿～新屋敷～九品寺の約３ km の距離を、「大井手の謎探し」や「シールハンター（スタンプラリー）」をしながら歩きました。また、子供たちは普段出来ない「舟流し」を体験し、とても良い笑顔を見せてくれました。普段何気なく見ている風景を、ワクワク、楽しいものとして見られるような工夫がほどこされた「まち歩き」でした。

2015.12.6（日）

第４回大井手の楽校　@国際交流会館

9：30 ～ 11：30

里川歩きで、参加者の皆さんがつくって下さった新しい「大井手の謎」をマップで可視化し、大井手をもっと身近で素敵な場所にするためには、自分たちは何ができるのかを考えました。「大井手でやってみたいこと」をテーマにしたワールドカフェは、より具体的なイメージを共有しながら話すことができました。

お問合せ

中央区役所総務企画課　電話：096(328)2610　FAX:096(355)4190
電子メール：chuousoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp
大井手を楽しむ会　Facebook：https://www.facebook.com/groups/oideno.gakkou

水都大阪
AQUA METROPOLIS OSAKA
MIZBERING
地（知）の拠点
135

水都大阪の挑戦

都市を変える水辺アクション

都市は大学とともに　大学は都市とともに
公立大学法人　大阪市立大学

嘉名光市　大阪市立大学大学院　准教授
大阪府・大阪市　特別参与

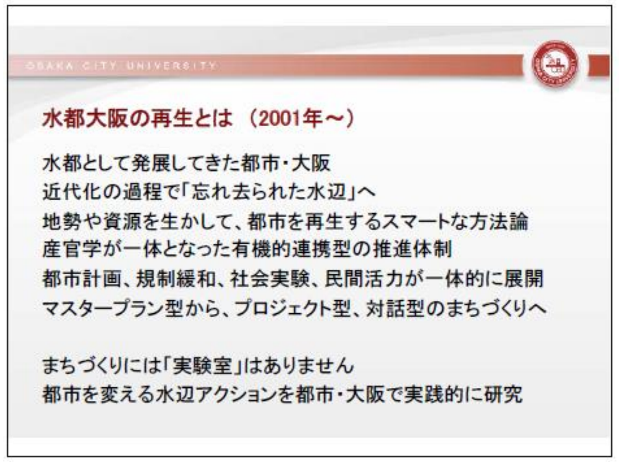
1

kana@eng.osaka-cu.ac.jp

都市を変える水辺アクション
"MIZUBE ACTION" for Transforming Cities
実践ガイド
生きた建築　大阪
LIVING ARCHITECTURE in OSAKA
大阪ガスビル、心斎橋大丸、梅田スカイビル、リーチバー、喫茶アメリカン…
今なら行ける、見て歩けるザ・大阪の名建築50選！

都市を変える水辺アクション（学芸出版社）　生きた建築　大阪（140B）

2

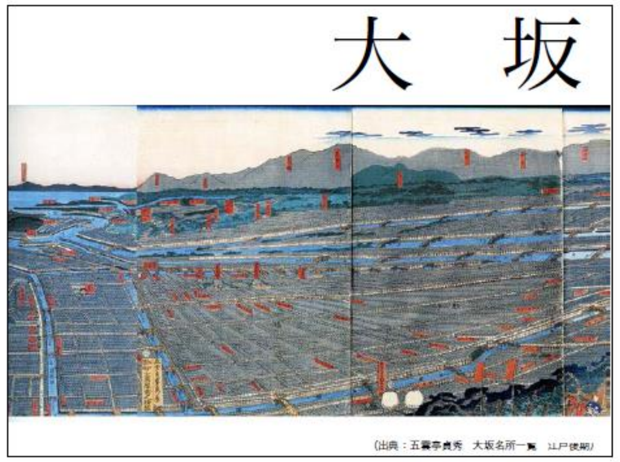


OSAKA CITY UNIVERSITY

水都大阪の再生とは　（2001年～）

水都として発展してきた都市・大阪
近代化の過程で「忘れ去られた水辺」へ
地勢や資源を生かして、都市を再生するスマートな方法論
産官学が一体となった有機的連携型の推進体制
都市計画、規制緩和、社会実験、民間活力が一体的に展開
マスタープラン型から、プロジェクト型、対話型のまちづくりへ

まちづくりには「実験室」はありません
都市を変える水辺アクションを都市・大阪で実践的に研究



大　坂

（出典：五雲亭貞秀　大坂名所一覧　江戸後期）

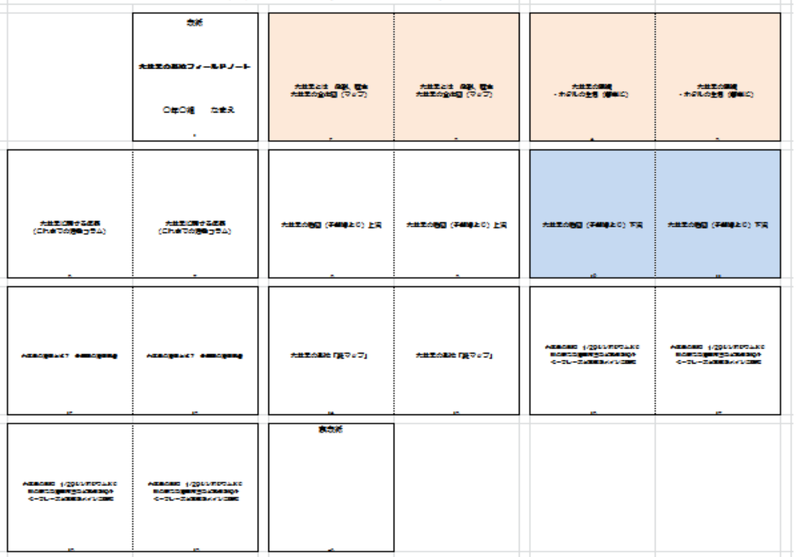
1.29 大井手の楽校シンポジウム・パネルディスカッション風景

「大井手の楽校シンポジウム」
主催：熊本市中央区役所　熊本大学政策創造研究教育センター
第一部　基調講演　水都大阪の挑戦　都市を変える水辺アクション　講師　大阪市立大学准教授　嘉名光市
第二部　パネルディスカッション　「大井手を活かした川まちづくり」

大井手のフィールドノート（案）作成中　H28.3 月末に完成予定

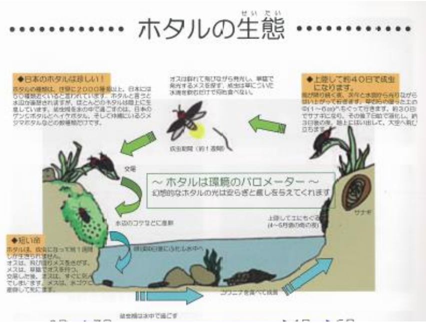
中央区マーク
大井手の楽校
フィールドノート
大井手の楽校フィールドノート
（お問合せ）
熊本市中央区役所
熊本市　中央区役所
熊本市中央区役所
公式 facebook
QR コード
おおいでのがっこう
なまえ
年　組
熊本市中央区

大井手の楽校フィールドノート〈案〉　台割り（A5版20ページ）



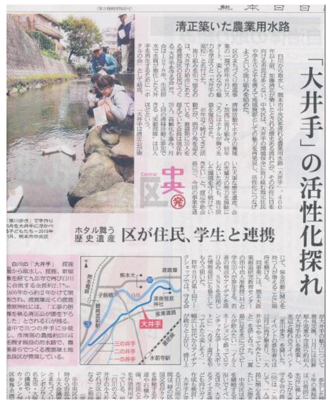
大井手里川歩きマップ（下流）

大井手里川歩きマップ（上流）



ホタルの生態

◆日本のホタルは珍しい！
◆上陸して約４０日で成虫になります。
～ホタルは環境のバロメーター～
幻想的なホタルの光は安らぎと癒しを与えてくれます
◆短い命
サナギ



熊本日日

清正築いた農業用水路

「大井手」の活性化探れ

ホタル舞う歴史遺産　区が住民、学生と連携

中央区
大井手
三の井手
二の井手
一の井手
水前寺駅

H27年8月31日「第1回大井手の楽校」

大井手の楽校 News Letter No.1

発行：平成27年9月29日
中央区役所総務企画課
熊本大学政策創造研究センター

「大井手の楽校」とは？

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、市内中心部（渡鹿～新屋敷～九品寺）を流れる農業用水路です。その歴史は古く、今からおよそ400年前に治水・灌漑のために加藤清正によって造られたと言われており、現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地元の方々によって大切に守られています。

熊本市中央区のまちづくり事業「井手の魅力再発見事業」の1つとして、大井手をもっと良くしていくにはどうしららいいのか、多くの人々に知ってもらうためには何ができるのかをみんなで考え、アイデアを出し合うことが、この「大井手の楽校」の目的です。

平成27年8月31日(月)18:30～20:00の1時間半、渡鹿集会所「鹿乃屋」にて、「大井手の楽校」第1回ワークショップを行いました。その時の様子をご紹介します。

プログラム1

自己紹介

今回のワークショップは、熊本大学の田中尚人准教授をファシリテーター（進行役）に、地元の「大井手を守る会」から5名、託麻原小学校の校長先生、熊本市中央区役所から6名、熊本大学の学生などが参加しました。

中央区役所の古場氏と田中准教授による趣旨説明の後、一人ずつ自己紹介を行いました。このときに、「自分が思う、大井手の良いところ・魅力」を挙げていきます。

「生まれも育ちも渡鹿。泳ぎは大井手で覚えた」など、地元の方々は昔から慣れ親しんだ大井手について、楽しそうにお話して下さいます。一方、「良い水路があることは認識していたが、あまりよく知らない」という意見も多く出ました。

うら面へ

プログラム2

ワールドカフェ

ワールドカフェとは、喫茶店で雑談をしているような感覚で議論するワークショップの手法です。ワークショップの参加者は、後で発表したりまとめたりしないので、気楽におしゃべりをしながら、どんな考えを持った人がいるのかを知ることができます。

まず、各テーブルに4～5名ずつ座ります。今回は3テーブル用意しました。そこで、「大井手の良いところ、悪いところ」をテーマに自由に意見を出し合います。そのとき、"テーブルクロス"に見立てた広用紙に、意見の内容を話しながら書き込んでいきます。中心に線を引いて片方には「○」を、逆側には「×」を書き、ポジティブな意見は「○」の方に、ネガティブな意見は「×」の方に書き込むようにしました。

初めてのワークショップの方が多く、最初は少し戸惑いがちだった皆さんですが、すぐにリラックスした様子でたくさんのご意見を出してくださいました。

「歴史的価値がある」「水辺が近くにあるのは、素晴らしい住環境である」「ホタルの養殖をしており、近くの子供たちは毎年楽しみにしている」などの良い点とは逆に、「あまり大井手のことが知られていない」「若い人が関心を持っていない」「ゴミの投げ入れが多い」などの問題点も挙がります。

10分経過すると各テーブル一人を残して席を移動、残った方が第1ラウンド目の内容を他の人に説明します。自分が前のテーブルで話していたこととは異なる意見があったり、全く同じ意見を見つけ共感したりしたことで、新たな意見やアイデアが生まれてきました。第3ラウンド目を終えると、"テーブルクロス"は、「大井手の良いところ、悪いところ」でいっぱいになりました。

ふりかえりアンケートより

良いところ

- ✓ 歴史があり、今も現役
- ✓ ホタルが飛ぶところ
- ✓ 住宅地に親しみある水辺があるのは素晴らしい

悪いところ

- ✓ 地域の人の関心が薄い
- ✓ 川にゴミを投げ捨てる人がいる
- ✓ 守る会の高齢化

やってみたいこと

- ✓ まち歩き・イベント
- ✓ 子供たちと川遊び
- ✓ 人が水辺に集まる場をつくりたい

このワールドカフェを通じて、大井手について具体的なイメージがなかった人にはもちろんのこと、地元の方々にも「客観的に大井手を見れた」と新しい発見があったようでした。

次回予告

第2回は、「大井手を守る会」講演会を予定しています。興味のある方はお気軽にご参加下さい。
日時：10月27日（火）17時～19時　場所：中央公民館 地下1階ホール
（お問い合せ）中央区役所総務企画課　電話:096(328)2610　FAX:096(355)4190
電子メール:chuousoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp

H27年10月27日「第2回大井手の楽校」

大井手の楽校 News Letter No.2

発行：平成27年11月4日
中央区役所総務企画課
熊本大学政策創造研究センター

「大井手の楽校」とは？

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、市内中心部（渡鹿～新屋敷～九品寺）を流れる農業用水路です。その歴史は古く、今からおよそ400年前に治水・灌漑のために加藤清正によって造られたと言われており、現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地元の方々によって大切に守られています。

熊本市中央区のまちづくり事業「井手の魅力再発見事業」の1つとして、大井手をもっと良くしていくにはどうしたらいいのか、多くの人々に知ってもらうためには何ができるのかをみんなで考え、アイデアを出し合うことが、この「大井手の楽校」の目的です。

10月27日(火)午後1時から3時まで行った、11月28日（土）に行われる"大井手と仲良しになろう！～大井手の楽校『里川歩き』～"のための試歩の様子と、17時から19時まで中央公民館で行った第2回大井手の楽校ワークショップの様子をご紹介します。

「里川歩き」の準備

10月27日(火)の午後1時から、「大井手を守る会」の皆さんや熊本大学の学生、熊本市中央区の職員など、合わせて約30名で、11月28日(土)に行われる里川歩きの試歩を行いました。里川歩きでは託麻原小の児童50名や、一般の方50名のご参加を予定しているため、「どうすれば楽しく歩けるか」、「危険な箇所はないか」など、当日を想像しながらの試歩です。

4～5人1組で、守る会の方、学生、中央区職員がなるべくバラバラになるようにグループを作り、気づいた点があれば守る会の方に質問をしたり、地図にメモをしたりしながら歩きました。また、大井手に架かる橋の数や、植物の種類、お店の数など、それぞれグループごとにテーマを持って歩いたことで、いろんな可能性が見えてきました。

これらが本番にどう生かされるかは乞うご期待！楽しい里川歩きになるように、作戦を練っています。

うら面へ

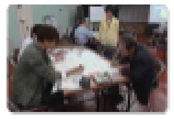
大井手と仲良しになろう！～大井手の楽校「里川歩き」～
11月28日(土)8時30分 北岡公園集合
参加申込み期間は11月5日～20日の平日午前8時30分～午後5時までです。
詳しくは中央区総務企画課 096[328]2610 までお問合せ下さい。

第2回大井手の楽校

ワールドカフェ

はじめに、ファシリテーター（司会役）である熊本大学の田中尚人准教授によるワークショップの趣旨説明の後、「大井手を守る会」の渡辺幸助会長のご挨拶では、大井手の歴史やホタルの養殖について教えて下さいました。それを受けて、中央区の菅野見区長は、「とても勉強になる。中央区に大井手が残っていることは素晴らしいこと。」と、"大井手の楽校"に、大きな期待をされているようでした。

ワールドカフェ方式は、カフェで雑談するような感覚で議論するワークショップの手法で、参加者はあとで発表したりはしないため、肩の力を抜いて意見交換ができます。第1回の楽校でも行った手法なので、慣れた様子でスタートできました。今回は「大井手でやってみたいこと」をテーマに自由に意見を出し合い、"テーブルクロス"に見立てた広用紙に、意見の内容を話しながら書き込んでいきます。前回は大井手を知らないという人が多かったのですが、今回のワールドカフェでは、試歩に実際に大井手を歩いた参加者が多かったこともあり、より身近に感じながらおしゃべりできました。



「大井手は河川ではなく農業用水路なので、水位のコントロールができる。安全に水遊びや自然学習ができそう。」という子供たちをターゲットにしたアイデアや「カフェやマルシェ、お酒が飲めるイベントを開催したい」などの大人が楽しめる空間をつくりたいという意見などが出てきます。一方で、現実的な案ばかりになってしまい、新しい発想を提案するというのはなかなか難しかったようです。

最後に田中先生は、「最近、全国の水辺空間で、昔はできなかったことがやれるようになってきた。言うだけにしないで、やれることは今すぐにでもやりたい気持ちです。」と、イベントが実現することの大切さを語られました。

ふりかえりアンケートより

大井手でやってみたいことは？

- みずあかりライトアップ
- 大井手ベンチャーカヌーで井手下り
- 自由研究教室
- 水遊び
- 大井手マルシェ
- 屋台ビアガーデン
- 歴史の看板
- ナイトハイク
- 清掃イベント↓打ち上げ水辺で乾杯！

お問合せ

中央区役所総務企画課　電話：096(328)2610　FAX: 096(355)4190
電子メール：chuousoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp

H27年11月28日「第3回大井手の楽校」

大井手の楽校 News Letter No.3

発行：平成27年12月4日
中央区役所総務企画課
熊本大学政策創造研究センター

「大井手の楽校」とは？

「大井手を楽しむ会」で検索！

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、市内中心部（渡鹿～新屋敷～九品寺）を流れる農業用水路です。その歴史は古く、今からおよそ400年前に治水・灌漑のために加藤清正によって造られたと言われており、現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地元の方々によって大切に守られています。

熊本市中央区のまちづくり事業「井手の魅力再発見事業」の1つとして、大井手をもっと良くしていくにはどうしたらいいのか、多くの人々に知ってもらうためには何ができるのかをみんなで考え、アイデアを出し合うことが、この「大井手の楽校」の目的です。

11月28日（土）に行われた"大井手と仲良しになろう！～大井手の楽校「里川歩き」～"の様子をご紹介します。

「里川歩き」スタート！

うら面のマップも参照！

午前8時30分、とても寒い朝でしたが、集合場所の北岡公園(マップ:①)には、たくさんの参加者が集まって下さいました。受付で、シールハンターカード(スタンプラリー)とルートマップ、使い捨てカイロ、軍手を受け取り、中央区の菅野見区長による挨拶と、熊本大学の田中尚人先生によるルール説明の後、里川歩きはスタートです。「大井手の謎」を探すことをテーマに歩きます。

今回の参加者は、一般で応募された方や託麻原小学校の児童・先生方、熊本大学の学生、大井手を楽しむ会のFacebookを見て来られた方など、およそ40名。6班に分かれ、大井手を守る会の方の解説を聞きながら歩きました。

最初は渡鹿菅原神社・水分（みくまり）神社です(②)。ここでは、宮司の黒川親弘さんに神社の説明をして頂きました。

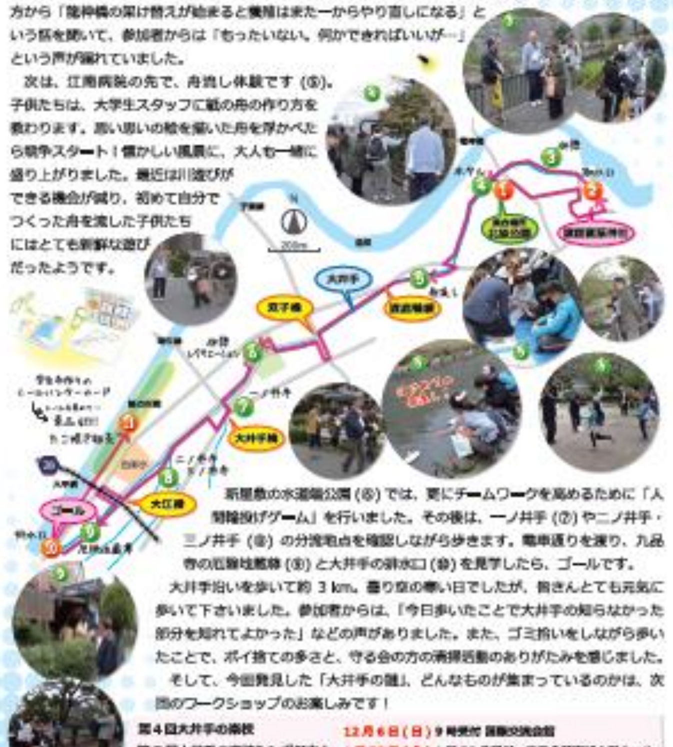
ここは、渡鹿堰が完成したときに、その守護神として造られた神社で、境内には、渡鹿堰をつくるときに清正公が座って指示をしたといわれる石があり、皆さんはそこに座って楽しげに記念写真を撮影していました。

うら面へ

菅原神社・水分神社を裏から出ると、大井手の取水口。ここが大井手のスタートです。そのすぐ先には、大井手の近くに降りられる空間があり（③）、大井手について語らいながら休憩します。ここで、スタンプラリーのシールもGET！

さらに進むと、北岡公園のすぐ裏にあるホタルゾーン(④)です。ここでは、大井手を守る会のみなさんがホタルの養殖をされています。一時は水質汚染が激しかった大井手ですが、守る会をはじめとする地元の方々の協力により、ホタルが住める美しい井手が復活しました。しかし守る会の方から「龍神橋の架け替えが始まると養殖はまた一からやり直しになる」という話を聞いて、参加者からは「もったいない、何かできればいいが…」という声が漏れていました。

次は、江南病院の先で、舟流し体験です（⑤）。子供たちは、大学生スタッフに紙の舟の作り方を教わります。思い思いの絵を描いた舟を浮かべたら競争スタート！懐かしい風景に、大人も一緒に盛り上がりました。最近は川遊びができる機会が減り、初めて自分でつくった舟を流した子供たちにはとても新鮮な遊びだったようです。



新屋敷の水道橋公園（⑥）では、更にチームワークを高めるために「人間輪投げゲーム」を行いました。その後は、一ノ井手（⑦）や二ノ井手・三ノ井手（⑧）の分流地点を確認しながら歩きます。電車通りを渡り、九品寺の石造眼鏡橋（⑨）と大井手の排水口（⑩）を見学したら、ゴールです。

大井手沿いを歩いて約3km。曇り空の寒い日でしたが、皆さんとても元気に歩いて下さいました。参加者からは、「今日歩いたことで大井手の知らなかった部分を知れてよかった」などの声がありました。また、ゴミ拾いをしながら歩いたことで、ポイ捨ての多さと、守る会の方の清掃活動のありがたみを感じました。

そして、今回発見した「大井手の謎」、どんなものが集まっているのかは、次回のワークショップのお楽しみです！

第4回大井手の楽校　12月6日(日)9時受付 国際交流会館
第5回大井手の楽校シンポジウム　1月29日(金)1時30分受付　市民会館崇城大学ホール
事前のお申込みは不要です。どなたでもご参加できます。
詳しくは中央区総務企画課 096(328)2610 までお問合せ下さい。

H27年12月6日「第4回大井手の楽校」

大井手の楽校 News Letter No.4

発行：平成27年12月11日
中央区役所総務企画課
熊本大学政策創造研究センター

「大井手の楽校」とは？

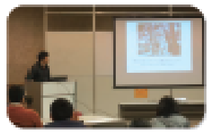
「大井手を楽しむ会」で検索！

大井手は、白川の水を渡鹿堰から取水し、市内中心部（渡鹿～新屋敷～九品寺）を流れる農業用水路です。その歴史は古く、今からおよそ400年前に治水・灌漑のために加藤清正によって造られたと言われており、現在も役割を変えずに使用されています。また、市内中心部の住宅街の中にある水辺と緑は、地元の方々によって大切に守られています。

熊本市中央区のまちづくり事業「井手の魅力再発見事業」の1つとして、大井手をもっと良くしていくにはどうしたらいいのか、多くの人々に知ってもらうためには何ができるのかをみんなで考え、アイデアを出し合うことが、この「大井手の楽校」の目的です。

12月6日（日）9時30分～11時30分に国際交流会館4階第3会議室で行われた「第4回大井手の楽校」の様子をご紹介します。

「里川歩き」ふりかえり



まずは、熊本大学の田中尚人先生による挨拶と趣旨説明です。前回の楽校の「里川歩き」というネーミングについて、「"里山"は馴染みがある言葉。母のような包み込む"里山"のような存在と同様に、自然を楽しめるように、大井手を"里川"だと感じてほしいと思って名付けました。そしてその魅力を作っていくのがこの大井手の楽校、大井手を楽しむ会だと思っています。」と説明されました。

次に、熊本大学の島 周次郎さんのプレゼンにより、前回の里川歩きの振り返りを行いました。舟流しの場面では、普段はできない遊びが出来て良い笑顔だった子供たちの様子などを写真付きで紹介。「イベントを通して危険だけではなく、"楽しいところだよ"ということを子供たちに教えたい」という思いを語ります。田中先生からは、「来年は本当に舟を用意して、夏に舟流しをしたいと思っている。ダメだダメだと言われてきたことを、どうすればやれるようになるかを考えていきたい」というコメントもありました。また、前回と今回の両方に参加した方に、「大井手を楽しむ会」の会員証を作成しました。みんなが仲間として、大井手を盛り上げていければ良いなと思います。

第5回大井手の楽校シンポジウム　1月29日(金)　1時30分受付　市民会館崇城大学ホール
事前のお申込みは不要です。どなたでもご参加できます。
詳しくは中央区総務企画課 096(328)2610 までお問合せ下さい。

うら面へ

大井手の謎マップ

里川歩きのときに皆さんに作っていただいた「大井手の謎」を本人の写真入りのシールにしたものを、地図に貼っていきました。

大井手の歴史についての謎や、「大井手の川沿いに果物の木が植えてあります。何の木でしょうか？」や「大井手近くの新屋敷交番に花をプレゼントしたのは誰でしょう？」という、日常では見落としがちな、暖かさが伝わってくるような「謎」があったりと、バラエティに富んだ内容です。様々な「大井手の謎」が可視化され、大井手の魅力や、どうしたらもっと多くの人に伝わるか、そのためには何ができるのかなどを考えるきっかけの1つとなったように思います。

ワールドカフェ

「大井手でやってみたいこと」をテーマに、ワールドカフェを行いました。ワールドカフェは、カフェで雑談するような感覚で議論するワークショップの手法です。第2回でも同じテーマでワールドカフェを行いましたが、その時のアイデアが頭に浮かんだ状態で里川歩きを行ったことで、今回は、参加者のほとんどが大井手の具体的なイメージを共有しながらおしゃべりができたようでした。

「大井手の内側に降りられる場所が実はほとんどない。中に飛び石を設置できないか」など、大井手を楽しむための空間づくりに対するアイデアのほか、お花見やお月見、花火大会やイルミネーションなどの季節ごとのイベント案もたくさん出てきました。「季節ごとのイベントも、広く知ってもらうには大事だが、それだけではなく、日常の中で愛着を持ってもらいたい」という意見もありました。

ふりかえりアンケートより

大井手でやってみたいことは？

- 案内看板
- 校区対抗ゴミ拾い大会
- オーナー制の植樹
- 四季の花
- お花見
- イルミネーション
- お月見
- 大井手灯り
- 花火大会
- ホタル祭り
- 水中水族館
- 恋人の聖地
- 飛び石設置
- くつろぎ空間
- 夕涼みスポット
- 写真スポット
- ボート下り
- 釣り
- 魚のつかみ取り
- 発掘調査の成果発表
- 生き物調べ

お問合せ

中央区役所総務企画課　電話：096(328)2610　FAX: 096(355)4190
電子メール：chuousoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp